

2019年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト  
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」成果報告書

2020年3月  
和歌山市

本報告書は、スポーツ庁委託事業として、和歌山市が実施した2019年度障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

## 目次

### I 事業の背景と目的

1. 事業実施の趣旨
2. 事業の実施期間
3. 事業内容
  - (1) 実行委員会の開催
  - (2) 障害者スポーツの受け皿となる指導員の養成
  - (3) スポーツを始める意欲を持つ障害者の掘り起こし
  - (4) 障害の有無に関わらず、共にスポーツを楽しめる環境づくり
4. 事業実施日程

### II 実行委員会の実施

1. 目的
2. 構成
3. 開催結果
  - (1) 第1回和歌山市障害者スポーツ実行委員会
  - (2) 第2回和歌山市障害者スポーツ実行委員会
  - (3) 第3回和歌山市障害者スポーツ実行委員会

### III 障害者スポーツの受け皿となる指導員の養成

### IV スポーツを始める意欲を持つ障害者の掘り起こし

### V 障害の有無に関わらず、共にスポーツを楽しめる環境づくり

### VI 今年度事業の考察と今後の方針

## I 事業の背景と目的

### 1. 事業実施の趣旨

本県においては、2015年に、第70回国民体育大会（「紀の国わかやま国体」）及び第15回全国障害者スポーツ大会（「紀の国わかやま大会」）が開催され、これを契機として、既存施設のバリアフリー対応を含む一定のスポーツ施設関連の整備が完了している。また、本県では、毎年「和歌山県障害者スポーツ協会」が主催する「和歌山県障害者スポーツ大会」が開催されているとともに、障害者スポーツ教室も定期的で開催されており、本市における事業としても、障害者卓球大会や障害者野球大会が長年開催されるなど、数多くの障害者スポーツに対する取組がなされているが、障害者のスポーツへの参加率はあまり高くない状況にある。この原因として、障害者スポーツの受け皿となる障害者スポーツ指導員が僅少であるため、障害者が新たにスポーツを始めようとしても受け入れが難しいという状況であることで、健常者と障害者の間ではスポーツ環境が分断されていると推察される。

こうした現状を踏まえ、本市における障害者スポーツ推進事業の目的を、「スポーツを通じた共生社会の実現に向け、障害者が健常者と同様にスポーツに親しめる状況を実現すること」とし、障害者スポーツ活動の裾野の拡大を図った。

### 2. 事業の実施期間

令和元年7月24日から令和2年2月26日

#### 事業内容

##### (1) 実行委員会の開催

障害者スポーツの普及に向け和歌山市障害者スポーツ推進実行委員会を設置し、委員会を3回実施。障害者スポーツ教室、スポーツイベント開催を効率的かつ効能的に実施するための意見交換や障害者と健常者が共にスポーツを楽しめる環境づくりのための検討を行った。

##### (2) 障害者スポーツの受け皿となる指導員の養成

県が実施する「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」の資格者の増加を目的に広報活動を実施。

##### (3) スポーツを始める意欲を持つ障害者の掘り起こし

障害者の方々が身近で気軽にできるスポーツの普及を推進するため、次の障害者スポーツ教室を開催し、障害者スポーツの普及と健康増進を図る。

(4) 障害の有無に関わらず、共にスポーツを楽しめる環境づくり

障害のある方もない方も、すべての人がスポーツを通じての学び・楽しさを一緒に体験できるイベントを開催し、障害者の気軽に身近な場所でスポーツができるような環境整備を図る。

- ・「精神障害者ボーリング大会」
- ・「和歌山市障害者スポーツイベント（全体会）」

## II 実行委員会の実施

### 1. 目的

障害者スポーツの普及に向け、必要な事項を検討・競技するとともに、障害者団体・スポーツ団体・障害者スポーツ団体などの多様な主体が、それぞれのノウハウを提供し合い、緊密な連携を行うことで、事業を効果的かつ効率的に実施すること。

### 2. 構成

障害者団体	市身体障害者連盟 会長 畠中 常男
スポーツ団体	市体育協会 副会長 鎌田 多記男 市スポーツ推進委員連盟 会長 小林 俊次
障害者スポーツ団体	県障害者スポーツ協会 常任理事 市川 雅章 県障害者スポーツ指導者協議会 会長 津村 優子
行政関連	市文化スポーツ振興財団 事務局長 中谷 雅昭 障害者支援課 課長 西岡 貞晶 スポーツ振興課 課長 山本 敬 保健対策課 課長 豊田 忠彦

### 3. 開催結果

#### (1) 第一回和歌山市障害者スポーツ推進実行委員会

開催日：令和元年7月30日（火）

開催場所：和歌山市役所14階大会議室

主な内容：

#### ■障害者スポーツ推進事業の概要について

- ・事業の趣旨について
- ・事業計画について
- ・実施予定の広報について

#### ■今後のスケジュールについて

主な意見：

障害者スポーツイベント開催に関する意見

- ・開催場所は、車いす利用者にも配慮し、障害者用トイレの個数の多い場所にするべき。
- ・9月～1月に開催する障害者スポーツ教室の成果を披露する場を作るのは良い。

(2) 第二回和歌山市障害者スポーツ推進実行委員会

開催日：令和元年11月20日(水)

開催場所：和歌山市役所14階大会議室

主な内容：

■障害者スポーツ推進事業の進捗状況について

■障害者スポーツイベントについて

主な意見：

障害者スポーツ教室について

- ・教室終了後アンケートを取るべき。
- ・今後は視覚障害者も参加しやすい種目も取り入れるべき。

障害者スポーツイベントについて

- ・ウォーキングイベントは、参加申込者だけではなく、会場にいる全員で行う方が良い。
- ・聴覚障害者のバスケットボールチームによる3on3や教室は、音のない世界でパスを回すなど団体競技を行う上で苦勞している点を説明するべき。

(3) 第三回和歌山市障害者スポーツ推進実行委員会

開催日：令和2年2月26日(水)

開催場所：和歌山市役所14階大会議室

主な内容：

■今年度事業の報告

■来年度事業について

主な意見：

今年度事業について

- ・参加者の確保の難しさが浮き出たため、周知方法を見直すべき
- ・視覚障害者の方も参加できる種目も選定すべき

来年度事業について

- ・障害者の住む地域で、スポーツをする機会を作るべき
- ・継続的な事業が必要

### Ⅲ 障害者スポーツの受け皿となる指導員の養成

県が実施する「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」の資格者の増加を目的に広報活動を実施した。これは、将来的に、市有運動施設の指定管理者や総合型地域スポーツクラブ、障害者入所施設などが、障害者のためのスポーツ教室などを、それぞれで開催することが出来るよう、各々の団体に有資格者を備えることも目的としている。市報や直接的な勧誘の結果、初級指導者資格取得者数が、県においては昨年度比で倍増し、本市においては3倍に増加するなど、大きな成果を得ることが出来た。

#### <周知先リスト>

障害者団体	和歌山市身体障害者連盟、居宅介護施設132カ所、生活介護施設26カ所、療養介護施設1カ所、短期入所施設18カ所、自立訓練施設10カ所、就労移行支援施設7カ所、就労継続支援施設（A型19カ所、B型56カ所）障害者支援施設7カ所、計画相談支援施設29カ所、就労定着支援施設2カ所、自立生活援助施設2カ所、共同生活援助施設19カ所、児童通所支援施設41カ所、障害福祉サービス13カ所、地域活動支援センター事業（I型2カ所、II型4カ所、III型1カ所）
スポーツ団体	<p>■総合型地域スポーツクラブ</p> <p>NPO 法人スポーツクラブ和歌山ヴィーヴォ、紀の国アスリートクラブ、NPO 法人スポーツチャンネル、安原スポーツクラブ、スプラウトスポーツクラブ和歌山、NPO 法人紀三井寺スポーツクラブ、NPO 法人和歌山セーリングクラブ、総合型クラブまこと会、NPO 法人総合型地域スポーツクラブBBS21、総合型クラブTELAKOYA、和北総合クラブ、壁ん原人スポーツクラブ、アルテリーヴォ和歌山、和歌山さわやかスポーツクラブ、和歌山市中心市街地総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会</p>
その他	<p>■市有施設指定管理者</p> <p>市文化スポーツ振興財団、ミズノグループ</p> <p>■行政職員</p> <p>和歌山市職員及び小中学校教職員など</p>

- 開催日 令和元年8月17日（土）  
18日（日）  
25日（日） 計3日間

- 開催結果 修了者 26名（昨年度実績 13人）  
うち和歌山市 在住 16人（昨年度実績5人）



<初級障害者スポーツ指導者養成講習会の様子>



#### IV スポーツを始める意欲を持つ障害者の掘り起こし

##### 障害者スポーツ教室の開催

本教室で指導する種目は、通常挙げられるような障害者スポーツばかりではなく、健常者が各地で日常的に行っているような人気のあるニュースポーツを対象とすることで、それらの種目のプレイヤーや指導者、協会関係者などに対して、障害者の参画が可能であることなどを示すとともに、交流によって生まれる社会的な意義などについて理解を促すことなども一つの目的と定め、ペタンク、健康体操、卓球バレー、バスケットピンポン、グラウンド・ゴルフを選定した。

参加者数の確保に難航したが、延べ参加者人数としてペタンク教室21人、健康体操13人、卓球バレー33人、バスケットピンポン22人、グラウンド・ゴルフ29人の計118人が参加。教室終了後のアンケートでは、約7割の方が満足またはやや満足と回答し、回答者全員が今後も参加したいとの結果が得られた。

- 指導員 市ペタンク協会、市グラウンド・ゴルフ協会、市卓球協会  
市スポーツ推進委員連盟（ラジオ体操指導士1級資格者）、日本バスケットピンポン株式会社
- 補助員 市スポーツ推進委員連盟、ボランティア
- 教室運営委託 市文化スポーツ振興財団

<参加者募集チラシ>

各教室のスケジュール

月	日	曜日	開催会場	種目1	種目2	種目3
9	7	土	高南コミュニティセンター	ペタンク	健康体操	
10	18	日	市役所14階大会室	卓球バレー	バスケットピンポン	
	12	土	松下体育館	ペタンク	健康体操	
	13	日	松下体育館	卓球バレー	バスケットピンポン	
	26	土	貴山園 緑球場	グラウンド・ゴルフ		
	16	土	河内体育館	ペタンク	健康体操	
	23	土	松下体育館	卓球バレー	バスケットピンポン	
11	7	土	東公園 緑球場・練習場	グラウンド・ゴルフ	ペタンク	健康体操
	15	日	松下体育館	卓球バレー	バスケットピンポン	
	12	日	東公園 緑球場・練習場	グラウンド・ゴルフ	バスケットピンポン	
	25	土	東公園 緑球場・練習場	グラウンド・ゴルフ	ペタンク	

開催期間：9月~11月（健康体操は1時間短縮）  
対象：和歌山市在住・在勤・在学の方で、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方  
定員：ペタンクコース（全5回）、健康体操コース（全4回）、卓球バレーコース（全4回）、バスケットピンポンコース（全5回）、グラウンド・ゴルフコース（全4回）  
毎にそれぞれ20名程度（応募多数の場合は抽選）  
参加料：200円（各コースに参加するための保険料）

障害者スポーツ教室・申込用紙  
FAX : 073-435-1358

ふりがな 氏名	性別		男	女
〒				
住所	※和歌山市以外に在住の方は、勤務、通学先も記入			
生年月日	年	月	日	(作新 歳)
電話番号	※日本郵便の取れる電話番号をご記入下さい			
参加種目	第1希望の種目		第2希望の種目	
障害者手帳（身体・療育・精神）	種別	級	種別	級
療育手帳（有・無）	学級編入（要・否）	要約編入（要・否）	合勤者（有・無）	

<広報先>

メディア	市報わかやま 2019年8月号 LIVING 和歌山 2019年8月号 テレビ和歌山 「わがまち和歌山」 2019年8月1日放送 和歌山放送 「ゲンキ和歌山市」 2019年8月14日放送
障害者個人	県主催の障害者スポーツに参加実績のある方144人
障害者団体	和歌山市身体障害者連盟、居宅介護施設132カ所、生活介護施設26カ所、療養介護施設1カ所、短期入所施設18カ所、自立訓練施設10カ所、就労移行支援施設7カ所、就労継続支援施設（A型19カ所、B型56カ所）障害者支援施設7カ所、計画相談支援施設29カ所、就労定着支援施設2カ所、自立生活援助施設2カ所、共同生活援助施設19カ所、児童通所支援施設41カ所、障害福祉サービス13カ所、地域活動支援センター事業（I型2カ所、II型4カ所、III型1カ所）

<開催日程と参加者数>

	場 所		参加者数	講師	ボランティア
9月 7日	河南コミュニティセンター	ベタンク	6	3	2
		健康体操	2	4	
16日	市役所14階大会議室	卓球バレー	8	5	6
		バスケットピンポン	5	2	
10月 12日	松下体育館	ベタンク	天候不良で中止		
	中止	健康体操			
13日	松下体育館	卓球バレー	8	4	8
		バスケットピンポン	2	3	
26日	東公園 球技場	グランドゴルフ	10	3	0
11月 16日	河南体育館	ベタンク	6	4	0
		健康体操	3	3	
23日	松下体育館	卓球バレー	10	3	4
		バスケットピンポン	6	4	
12月 7日	東公園 球技場・体育館	グランドゴルフ	4	3	0
		ベタンク	5	5	
		健康体操	8	2	
15日	松下体育館	卓球バレー	7	4	5
		バスケットピンポン	5	4	
1月 12日	東公園 球技場・体育館	グランドゴルフ	8	3	4
		バスケットピンポン	4	3	
25日	東公園 球技場・体育館	グランドゴルフ	7	2	0
		ベタンク	4	6	
		延べ(名)	118	70	29

<教室の様子>



卓球バレー



グラウンド・ゴルフ



健康体操



バスケットピンポン



ペタンク

## V 障害の有無に関わらず、共にスポーツを楽しめる環境づくり

障害のある方もない方も、すべての人がスポーツを通じての学び・楽しさを一緒に体験できるイベントを開催。

### ・精神障害者ボーリング大会

開催日：令和元年8月21日（水）

場所：和歌山グラウンドボウル

対象者：精神手帳所持者またはその家族

参加者人数：59人

<当日の様子>



### ・障害者スポーツイベント（全体会）

開催日：令和2年2月2日（日）

開催場所：和歌山市東公園体育館、和歌山市民球場

参加者数：298人（延べ人数）

- 指導員 市ベタंक協会、市グラウンド・ゴルフ協会、市卓球協会  
市スポーツ推進委員連盟（ラジオ体操指導士1級資格者）、日本バスケットボール株式会社、ウォーキングインストラクター
- 補助員 市スポーツ推進委員連盟
- イベント運営委託 テレビ和歌山、one-s future（バスケットボール教室運営）



<実施内容>

今年度事業の集大成として、今年度開催した「障害者スポーツ教室」種目の健常者の参加も含めた体験会や、和歌山地域密着型アイドルのミニコンサート、デフバスケットボール日本代表によるデモンストレーション及びバスケット教室、和歌山県出身のデューク更家氏公認インストラクターによるウォーキング教室などを、スポーツ振興和歌山市議会議員連盟と共催で実施した。本イベントも参加者数の確保に難航したが、全体の延べ参加者数は298人。イベント終了後のアンケートでは、9割以上の方が満足かつまた参加したいとの結果が得られた。

<イベントチラシ>



体験会の各競技の定員と開催時間

○バタンク (各定員 15人)	⑩10時 45分～	⑪11時 15分～	⑫11時 45分～
○卓球パレー (各定員 12人)	⑩10時 45分～	⑪11時 15分～	⑫11時 45分～
○バスケットピンポン (各定員 10人)	⑩10時 45分～	⑪11時 15分～	⑫11時 45分～
○グラウンド・ゴルフ (各定員 24人)	⑩10時 45分～	⑪11時 15分～	⑫11時 45分～



障害者スポーツイベント参加申込用紙

FAX : 073-431-2840

氏名	生年月日			年	月	日
性別	〒					
電話番号	※申請書提出時の住所、勤務、進学先を記入					
希望競技	※申請書提出時の希望競技を複数選択可(最大3種まで)					
希望時間	⑩10時 45分～	⑪11時 15分～	⑫11時 45分～			
希望競技	バタンク	卓球パレー	バスケットピンポン	グラウンド・ゴルフ	ウォーキング	その他
参加費	無	有	有	有	有	有
参加費	無	有	有	有	有	有
参加費	無	有	有	有	有	有

<広報先>

メディア	市報わかやま 2020年1月号 LIVING 和歌山 2020年1月号 スポーツ振興和歌山市議会議員連盟公式 Twitter、Facebook
障害者個人	県主催の障害者スポーツ大会に参加実績のある方 144人
障害者団体	和歌山市身体障害者連盟、居宅介護施設 132カ所、生活介護施設 26カ所、療養介護施設 1カ所、短期入所施設 18カ所、自立訓練施設 10カ所、就労移行支援施設 7カ所、就労継続支援施設 (A型 19カ所、B型 56カ所) 障害者支援施設 7カ所、計画相談支援施設 29カ所、就労定着支援施設 2カ所、自立生活援助施設 2カ所、共同生活援助施設 19カ所、児童通所支援施設 41カ所、障害福祉サービス 13カ所、地域活動支援センター事業 (I型 2カ所、II型 4カ所、III型 1カ所)

<当日の様子>



## VI 今年度事業の考察と今後の方針

### <考察>

本事業を通じて、障害者スポーツを推進していく障壁として、「情報の共有」と「移動手段の確保」が確認された。「情報の共有」とは、障害者への事業情報などが伝わりづらいことを指し、具体的には、参加者を募集する際などに、作業所にチラシを送付したが、チラシの送付だけでは事業者から施設利用者へ伝達されなかったことや、障害者入所施設や障害者作業所などや県障害者スポーツ大会へ参加実績がある者などに連絡を行ったが、特定のコミュニティに所属していない障害者に対しては情報が拡散され難いことである。また、「移動手段の確保」とは、今回の参加者のうち多くの方が、作業所を通じて参加を申し込まれた施設利用者であり、その大部分は重度障害を抱えていることから、移動制約者でもあった。これらの方は、作業所などの協力によって、移動手段を確保していたが、裏を返せば作業所などの協力が得られない場合は参加が難しくなるため、本人が参加を希望している場合でも参加できない事例もみられた。

### <今後の方針>

今年度事業の取り組みについて、多くの参加者や関係各所より好評の声を頂いているため、今後も継続的な事業を実施していきたい。ただし、より多くの障害者の方にスポーツを楽しんでいただくためには、考察で述べた障壁を緩和していく必要がある。その方策の一つとして、今年度実施した取り組みをアウトリーチすることが考えられる。今年度の事業は、市立体育館やコミュニティセンターなどで開催したが、協力いただける障害者関係施設や、学校、支所などを利用し、周辺にお住いの障害をお持ちの方や地域住民を対象とするスポーツ教室の開催をする。これにより今年度の課題の一つであった「移動手段の確保」について、こちらからその地域に入っていくことでその課題を緩和し、また地域のスポーツ推進委員や民生委員に協力を仰ぎ、口コミで教室を広めることでも一つの課題であった「情報の共有」も緩和できるかと考える。

今後も、スポーツを通じた共生社会の実現に向け、障害者が健常者と同様にスポーツを親しめる状況の実現のために、障害者が身近な場所で、継続的にスポーツの取り組める環境整備を更に図っていきたい。